

選挙と主権者教育

今日は総選挙の日です。

社会人になるまで、国政が日常生活に影響することの実感はなかった。

しかし、社会人になってから自分の考え方が変わった。

かつて、金沢大学附属中学校に勤務していた時のことだ。

附属小学校と中学校の事務を司る附属学校事務室があった。

この部屋に入ると、常にテレビが視聴できるようにしてあった。

若かった自分にとって「何と不謹慎」と思ったので、その理由をそっと中学校担当事務員に聞いた。

「予算確保の状況を逐次知っておかなくてはいけないので、情報収集が必要なのだ」とのこと。

実は当時、金沢大学角間キャンパス移転に伴い、国の予算編成が金沢大学附属学校存続を含めた附属学校移転に大きく影響を与える時期であった。

また、職員団体の支部執行委員になったときにも国政が身近に感じることがあった。

議案のはじめに「情勢」が長々と書いてある。全く必要と考えていなかったが、執行委員長は、「国の考え方、社会の考え方、それぞれに何が起きているのかを十分に把握して、取組を提起しないと行けない」と丁寧に説明していた。このことで「情勢」の意味が理解できた。

国が何をしようとしているのか、それを決定する国会、そこへ送り込む住民の代表の議員、彼らを選ぶ選挙、国政はまさに国民とつながっている仕組みがある。この仕組みにより、最終的に国政が日常生活に大きく影響することは、義務教育段階でもしっかり学習することになっている。

さて、今回の総選挙では教育に関する公約も大変多い。教育行政にとっても、今後制度が大きく変わる可能性がある。選挙の結果が大変気になるところである。

さらに、今回、18歳有権者が参政権を行使するので、改めて主権者教育が話題となっている。

様々な実践が高等学校を中心に取り組まれている。忙しい高校生ではあるが、大人は、選挙の大切さを理解させるようにしておかなくてはならないと思う。

特に、今日、複雑な社会情勢と多様な民意があることで、「A党の施策・B党の施策どちらがいいか」の2項対立ではなく、多様な考えがあることを出し合い、考え議論し、政治が自分事として自ら意思決定できるようにする主権者教育でありたい。まさに、特別の教科 道徳の学び方そのもののようだ。

昨日、有名な政治家と高校生がスマホで写真を撮っている様子がテレビで報道されていた。無いとは思いますが、「～さんと会ったのよ」、「…さんと握手したのよ」だけで投票することのないようにと思う。

これは、18歳有権者だけの話題ではなく、ベテラン有権者にも通じることである。

本日、台風接近にともなう荒天だが、夕方、投票に行く予定である。

夜は開票速報を見るだろうから、明日の朝は睡眠不足になるかもしれない。

とにかく平和で住みよい国、世界になってほしい。